

會員よりのたより

臺北支部通信

★“天文資料展”

打合會と準備——會期の迫る(昭和17年)三月18日夜、逕信部に於て役員會を開き、出陳すべき資料に付て検討し、各自の仕事を担当する。

經費の點を考慮して特殊技術を要する物を除いては皆、會員自身の能力に訴へて作成し、新體制に即應した協力は涙ぐましい。O. A. A. 山本博士及び東京の平山博士から寫眞と其他の提供には衷心よりの謝意を表したい。

三月25日からは會場である總督府博物館に引移り、陳列品の整備に夜中まで続ける。窪川會長を始めとして、諸役員が汗だくに勤勞奉仕する姿は麗はしき星の世界を思はせる。

幕を開く——臺灣最初の試みとして各方面から多大の期待を掛けられた“天文資料展覽會”は臺灣總督府博物館竝に臺灣日日新報社の後援で三月28日、堂々と、その賑やかな蓋を明けた。一般公開に先立ち、11時、各界の名士に披露し、主なる來觀者は藤村臺北市長、増田臺灣電力社長、白鳥臺大教授、皇民奉公會、州、市會議員、其他關係者等多數で、一同は窪川會長の案内で會場を一時間に亘つて丹念に參觀した。續いて押寄せる熱心な市民には係員も應接の暇が無く感激してしまふ。可愛い腫、驚異の腫、憧れの腫、慎重な腫は、博物館の隅を占める廣大な歴史室を埋める陳列品に注がれ、地上(?)では聞く事の出来ぬ言葉を我々は度々耳にした。天界の神秘を一室に集め、思はぬ好評を博し、又、指導者としての幾多の貴重な経験を修めて、四月5日滞りなく幕を閉じた。同夜、窪川會長が江山樓での招宴に吉村、堀川、細谷、和泉、笠衣諸氏及び小生は出席し、臺灣に於ける我々の天文的對策を談笑し、連日の緊張した氣分を吹き飛ばす。

★ 春の星を觀る會

“天文資料展”の中間催しとして、來觀者の熱望に應へ、四月2日晴夜を利用して新公園廣場に10種と7種半の屈折赤道儀を据付け、見得る遊星を始め各天體を一般に公開した。吉村氏の“春の星座”解説もあり、數百名の觀覽者の殺到に夜の更くるを忘れた。

★ 天文講演會

同じく展覽會開催中の四月3日14時から博物館2階廣間で窪川會長の“戰爭と天文”と題する興味深い貴重な天文講演があり、多數の來觀者に如何に天文の分野が廣いかを教へ、深い感銘を與へて盛會裡に15時20分散會した。(蔡章献誌)